

東日本大震災復興支援松戸・東北交流プロジェクトニュース “黄色いハンカチ”

【発行者】

松戸・東北交流プロジェクト(代表:古宮保子)
〒271-0092 松戸市松戸 1834-5 小川ビル 2階
TEL: 047-710-5519 FAX: 047-710-5546
E-mail: yellowhandkerchief1834@gmail.com

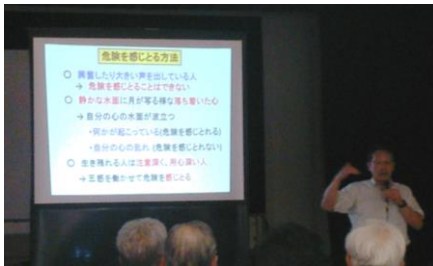
いろいろと学ぶことができた7月でした

暑中お見舞い申し上げます。

さるすべり
百日紅の花が色鮮やかに咲いています。
交流プロジェクトの活動も、少しずつ変化が出てきています。
避難者組織「サロン利用者の会」「自主避難者の会」代表は共に、外部での活動に目を向けています。宮城県避難者交流会・東京都社会福祉協議会へと出向きました。また、埼玉県内の避難者交流会(同世代)に参加を始めている避難者も居ます。皆様 暑い夏を気を付けて乗り切りましょう。古宮保子

防災講演会に参加して・・・

7月18日松戸市六実市民センターを会場に「松戸市における災害時体制について」という講演会がありました。
この講演会は六実六高台地区社会福祉協議会が主催したもので、講師には松戸市危機管理課の二見弘幸専門監が説明。避難所のあり方、地震の対応などを過去の災害時の写真や教訓をスライドで写しながら説明していました。
参加者は六実六高台地区の住民・町会の皆さんが参加され、講演後の質問では、学校との協力の必要性を市民から行政に述べていることが印象的でした。この講演会は松戸・東北交流プロジェクトが9月6日(日)に行う防災講演会のヒントになった内容でした。
(事務局 細嶋)



アンケート調査にご協力お願いいたします。
このような依頼がプロジェクトに入りました。協力いたします。結果は、次回以降の紙面で報告いたします。
この度、ふくしま連携復興センターでは先月、6月15日に福島県が発表した、避難指示区域外からの避難者の災害救助法の対応から新たな支援策への移行について、全国に避難している方々のご意見を集め、福島県に対しての意見書をまとめるべく、アンケート調査を行うことにいたしました。
「一般社団法人ふくしま連携復興センターとは」
ふくしま連携復興センターは、様々な支援のコーディネートやネットワークづくり、情報提供・情報発信、事業連携・協働推進を支えるべく活動している団体です。当団体も賛助会員として登録しています。

「ともにいきる会発会式」

発会式に出席させていただきました。
平成27年7月3日(金)
「ともにいきる会」の発会式が行われました。
代表は、福島県浪江町から松戸市へ避難をしている森川マツ子さんが務められています。気軽に集まっておしゃべりしたり、小物作りをしたり、食事会などをして、交流を深めようとしています。発起会の中には浪江町商工会の原田会長が「浪江町の現状」についてお話をする場面もありました。同じ松戸を拠点とする団体なので、今後とも協力しあえればと思います。

今年の七夕は・・・

6月30日～7月7日に毎年恒例の七夕飾りを行いました。参加者に願い等を書いていただきました。内容は、自分や家族・知人の健康を願うもの他に東北3県の復興を願うもの・サロンの継続を願うものもありました。多くの願いごとがかなうことをお祈りします。



ママカフェ サマーセミナー
とっておきのお話
放射能から子どもを守る
日時: 8月25日(火)
午後2時～3時半
講師 増田かおるさん

避難ママ
市民ママ
お待ちしております



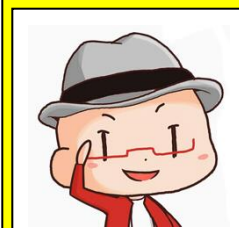
岩手県からの避難者の
皆様集まりましょう
積もる話を致しましょう

岩手県復興局生活支援課
吉田瑛爾様 来訪

日時: 8月11日(火) 11時頃
場所: 松戸東北交流サロン
「黄色いハンカチ」

ご希望の方はお昼と一緒に
お昼は各自準備お願いします
一緒に買いに行くこともできます

伝えたい大震災の記憶
学びたい大震災の体験 part 2
日時: 9月6日(日)
10時～16時30分
ワークショップ
街歩きと防災マップ創り
講演
阪神淡路大震災から20年を経て



講師
減災・福祉パー
ナーズ
蓮本浩介さん

避難者の体験記

連載! 私はあの時こうだった 高田孝一さん (福島県南相馬市) その2

被災者の方に、3.11の貴重な体験を一人でも多くの皆さんに忘れないで知って頂き語り継ぐことで今後も起こりうるであろう大災害に対してどんな心構えができるのか? 自分自身に問いかけして頂けたら幸いです。

我々が身を寄せた宿泊施設のオーナー達は原発事故後、福島市へ逃げ、我々もそこを出る事になった。しかし、福島に移住して4年、土地勘もなく道も充分知らない。福島市など内陸に出るには雪道の日光のいろは坂のような険しい道を通らなければならない。加えてこの時点でガソリンは全く手に入らず多くの避難車で渋滞するだろう。私は自力で内陸への移動は不可能と判断した。ではどうすれば? 人っ子一人いないゴーストタウンで放射能汚染と余震に怯えながら食料も乏しく貴重な灯油で暖をとり、「一体幾日ここでいざりれるのか?」我々のみならず町に残された人々は死を覚悟したに違いない。その後、行政とのコンタクトを試み、山林原野のなかの一軒家の我が家に戻った。降りしきる雨の中、飲料水を取る為、沢に水を汲みに行った。(たぶん内部被爆しているのでは?) 乏しい備蓄食料で寒さと暗闇の中何日か過ごし、必死の努力の末、行政とコンタクトがとれ、タッチの差で群馬県行のバスに乗れることになり2ヶ所の避難所を移動後、現在、松戸市に支援され至っている。何と数奇な運命なのか? 地震や津波からかうじて助かったものの、家は山間にあり、30k圏内でありながら放射線量が警戒区域と同じように今だに高い。以前は防風林しか見えなかったのが今では太平洋が見える。津波で多くの命を呑込んだ魔の海である。

群馬の避難所では落ち着く間もなく私は武道の稽古に取り掛かった。近所の山に捨てられていた竹で6尺棒や竹刀、拾った製材くずの板切れで武器を手造りし山からの赤城おろしの北風の中で稽古に励んだ。1ヶ月後、同じ群馬の施設に移動、そこには体育館があり、一人だけでは申し訳ないと思い、点灯もせず薄暗闇の中行った。これこそ修業というものだ。3.11以来実に得難い体験をして来たがそんな中にあっても何事もなかったように心穏やかにいられる、平常心ともいえようか? これは長年武道で培った精神のお蔭なのだろう。だが、一般の人々にはこの大災害のさなか、何故そこまでするのか? 全く理解できないかもしれないが、いつの日か機会があればお話できると思う。

保子の窓

あの日から四年半
日々の生活を詠む 波多野 達

震災もあれから四年もう四年
五年経っても何も変わらず?
避難した高層からの夜景より
野良の灯りが今は恋しき
転々しやつと馴染んだ仮設の仲間
皆んな出て行き残るは寂し

原発を詠む
再稼働始末が先と思えども
何故に分らぬこの道理
三〇年が永久に化け
約束した人その時何処へ

陸奥はいつも東にしてやられ
田村麻呂に頼朝に戊辰に今は原発に

波多野さんの短歌 心に沁みます

松戸・東北交流サロン「黄色いハンカチ」8月の予定

毎週火水木 10時~16時オープン中。利用は1回100円

8月4日(火) 歌の日
担当: 前田洋子さん

8月11日(火) 相談デー
就職・税金・介護・原簿補償・どんなことでも
相談員: 古宮保子

8月12日・26日(水) 13時30分~
初めての囲碁教室~一から教えます~
市民ボランティア講師: 今田靖雄さん

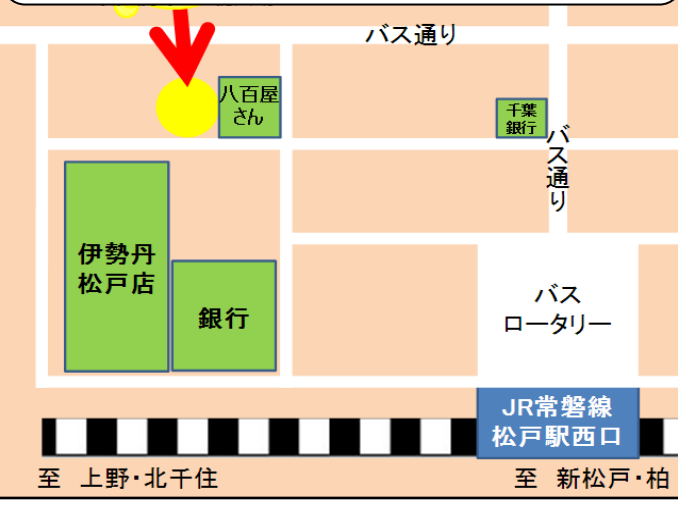
8月18日(火) 13時30分~
手芸の日

はぎれを使った小物づくり 担当: 戸丸栄子さん
8月25日(火) 14時00分~15時30分

ママカフェ
サロンセミナー~放射能から子どもを守る~
蔵のギャラリー・結花スタッフ: 増田かおるさん

8月27日(木) 広域避難者交流の日
~語り合おう私たちのこれから~

松戸・東北交流サロン「黄色いハンカチ」アクセスマップ
松戸駅西口から徒歩5分(八百屋さんの隣のビル2Fです。)



2015年度サポーター会員募集しています。
松戸・東北交流プロジェクトでは、千葉県に避難をしている皆さんと交流・支援をする活動をしています。この活動を応援していただくサポーターを募集しています。交流サロン黄色いハンカチで受付をしています。
個人:1口1000円 法人・団体:1口5000円